令和５年度新潟県病害虫発生予察情報・特殊報第１号
（トマトキバガの初確認）

令和５年９月 25 日
新潟県病害虫防除所

１　害虫名　　トマトキバガ（チョウ目キバガ科）　*Tuta absoluta*（Meyrick）

２　発生確認の経過及び国内の発生状況
（１）令和５年９月５日、横浜植物防疫所新潟支所敷地内に設置したトマトキバガの侵入調査用のフェロモントラップにおいて誘殺されたガの成虫を横浜植物防疫所で同定したところ、本県では未発生のトマトキバガであることが９月７日に判明した（写真１）。現在のところ、県内において本種による農作物の被害は確認されていない。
（２）本種は、国内では令和３年10月に熊本県、同年12月に宮崎県のトマトほ場で初めて確認されて以降、９月25日現在、当県を含め国内の24道県で確認されている。

３　形態
（１）成虫は、翅を閉じた静止時で体長５～７㎜（前翅長約５㎜、開張約10㎜）。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在する。後翅は一様に淡黒褐色である（写真２）。
（２）幼虫は、終齢で体長約８㎜。体色は淡緑色～淡赤白色。頭部は淡褐色。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある（写真３、４）。

４　生態と被害
（１）１年に複数の世代が発生し、繁殖力が高い。発生世代数は環境条件によって異なり、年に10～12世代発生する地域もある。卵～成虫になるまでの期間は24～38日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。
（２）成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多く、雌は一生のうちに平均約260個の卵を寄主植物の葉の裏面などに産み付ける。幼虫は１齢から４齢までの生育ステージがあり、土中や葉の表面で蛹化する。
（３）トマト、なす、ピーマン、ばれいしょ等のナス科植物が主要な寄主植物である。マメ科のいんげんまめも寄主植物として確認されている。トマトでは、茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる（写真５）。果実では、幼虫がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実品質が著しく低下する（写真６）。

５　防除対策
（１）ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
（２）トマトキバガの発生が疑われた場合は、病害虫防除所に連絡する。
（３）発生を拡大させないため、薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果実はほ場に放置せず、速やかに土中に深く埋設するか、ビニール袋などに入れて一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させ、適切に処分する。

（４）現在、トマトキバガに対して登録のある薬剤はトマト、ミニトマトのみであり（表１、２）、薬剤散布にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため系統が異なる薬剤のローテーション散布を行う（農林水産省「農薬登録情報提供システム」 https://pesticide.maff.go.jp/）。

写真１　フェロモントラップで誘殺された成虫

写真２　トマトキバガの成虫

写真３　トマトキバガの幼虫（終齢）

写真４　トマトキバガの幼虫（終齢）

写真５　トマト葉の食害痕

写真６　トマト果実の食害痕

写真１　農林水産省横浜植物防疫所
写真２～６　農林水産省植物防疫所原図

表１

○トマト

IRACコード	農薬の名称	農薬の種類	希釈倍率又は使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
5	ディアナSC	スピネトラム水和剤	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ラディアントSC		2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
6	アグリメック	アバメクチン乳剤	500～1000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
	アファーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	2000倍	収穫前日まで	5回以内	散布
11A	エスマルクDF	BT水和剤	1000倍	発生初期 但し､収穫前日まで	－	散布
13	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
22A	トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
22B	アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	1000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
28	ベネビアOD	シアントラニリプロール水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
	ベリマークSC		400株当り25mL （希釈水量400株当り10～20L）	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
	プリロッソ粒剤	シアントラニリプロール粒剤	2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布
	プリロッソ粒剤オメガ		2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ヨーバルフロアブル	テトラニリプロール水和剤	2500倍	収穫前日まで	3回以内	散布
30	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
UN	プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布

表２

○ミニトマト

IRACコード	農薬の名称	農薬の種類	希釈倍率又は使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
5	ディアナSC	スピネトラム水和剤	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ラディアントSC		2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
6	アファーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	2000倍	収穫前日まで	5回以内	散布
11A	エスマルクDF	BT水和剤	1000倍	発生初期 但し､収穫前日まで	－	散布
13	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
22B	アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	1000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
28	ベネビアOD	シアントラニリプロール水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
	ベリマークSC		400株当り25mL （希釈水量400株当り10～20L）	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
	プリロッソ粒剤	シアントラニリプロール粒剤	2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布
	プリロッソ粒剤オメガ		2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ヨーバルフロアブル	テトラニリプロール水和剤	2500倍	収穫前日まで	3回以内	散布
30	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
UN	プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布